

校長室だより

第15号

発行日 2007年10月19日

発行者 桐光学園小学校長 斎藤 滋

【後期に向けて】

平成19年度の後期の学校生活が始まりました。この春の全体会で、「きめ細かい指導を行いつつ、子ども一人ひとりの力を引き出していく」を今年度の教育活動の目標にするというお話をさせていただきました。このことは、この小学校では今もそしてこれからもずっと私たちの目標となり続けるものですが、特にこの春に改めて今年度の目標とするとお伝えしたのは、私自身の中にまさに今この目標を堂々と掲げるだけの力がこの小学校にあるという気持ちがあったからなのです。

この考えは、児童募集の活動の柱にもなりました。この小学校への入学を考えていらっしゃる保護者の方々にも、桐光学園小学校がどういう学校なのかを尋ねられた際に、私は「子ども一人ひとりの今の状況を受け入れるところから桐光学園小学校の教育は始まります」とお答えし、その上で「きめ細かい指導と力の引きだし」が行なわれていくことを説明してきました。

ただ、子どもの今の状況をどのように判断するかについては、学校側だけで判断できることではありません。そこには必ずと言っていいほど保護者と学校との間に考え方の一致、不一致が見えてきます。そういう意味において、改めて学校と家庭の連携の大切さを感じています。

さて、先日の運動会は、素晴らしい天候に恵まれ、子どもたちも保護者の皆さんからの声援を受けながら皆自分の力を出し切ることができたと思います。私の挨拶の中でも少し触れたかと思いますが、そうやって力を出し切ることで自分の力を知り、そこで身についた新たな力に気付くのではないか。そして、こういうことを成長と言うのだろうと考えます。

【はじめの一歩】

勉強のはじめの一歩と言えばやはり「授業」です。9月の期末試験の結果を各学年の先生たちと振り返り、問題点について話し合いました。その中で、残念ながら試験の結果があまりよくなかった子どもたちに共通しているのは、「授業中の取り組み」「課題への取り組み」などに問題があるということが明確になってきました。また、家庭学習としている宿題にも自分の力で取り組むことができていないような傾向も見られるようでした。試験の結果を見てはじめて感じたというものではなく、日常の学校生活の様子からそのような問題点を感じて、個別に声をかけてきた結果がこういうものであったことは大変に残念なことだと考えています。

後期の始業式の際に、子どもたちにも「授業を大切にしよう」という声をかけました。はじめの一歩を大切にすることで大きく変わることができるのを、子どもたちに理解してほしいと思っています。「授業」でどれだけのことを吸収できるかというのは、その後の学習に大変大きな影響を与えます。

さて、もう一つの学習の傾向として、「それ知ってるよ」という子どもの反応として出てくる、いわゆる「先取り学習」についてですが、これはあってはならないと言うことはできないことです。しかしながら、日常の授業で、あるいは土曜講習で、「学ぶ」のではなく「知っていることの確認」となってしまう子どもの言動が、「学ぶ」「考える」子どもの活動の妨げになってしまふこともあります。学校の授業は、年間のカリキュラムに従い、そのときに初めてその内容について学習することを前提にした授業でなければならないですし、また私たちもそういう意識を強くもっています。保護者の皆様にもこのことについてはご理解いただきたいと考えます。

【電車の中で宿題？】

先日高学年の担任の先生と話をしているときに、「電車の中で宿題をする子がいるんです」という話を聞きました。私は以前他校（私立小学校）の子どもたちが電車内でプリントと参考書のようなものを広げて宿題と思われるようなものを始めたのを見て、なんとなく複雑な気持ちになったことがあります。できれば宿題は家に帰ってからやった方がいいな。せっかく友だちと一緒にいるのだから会話を楽しむような時間にできないのかな、と思ったものでした。それが今、自分の学校の子たちも同じことをしている、という現実にぶつかってしました。

電車の中でできる程度の宿題なのかもしれません、そこにはたとえば字を丁寧に書くことなどは全く意識されていないのではないでしょうか。全てを電車の中でやっているとは思いませんが、宿題というのは家庭で机に向かってじっくりと取り組むべきものでしょう。

もっと友だちとの会話を楽しんでほしい。一人でいるときは本でも読んでほしい。これが私の本音です。

保護者の皆さんは、「宿題は？」と子どもに聞いたときに「電車の中でやったよ」との返事があったときに「あらそうなの、偉いわね」とは言わないのだろうとは思うのですが、子どもは「電車の中でやったよ」とは言わずに「やったよ」とか「終わったよ」としか言わないのかもしれません。

電車の中で宿題をしている子どもを見て、一般の人は「感心だな」とは思わないでしょう、むしろ「異常な学校」と思われてしまうかもしれません。さて、おたくのお子さんは電車の中でどのように過ごしているでしょうか。

